公益財団法人
サウンドハウスこどものみらい財団

こどもたちの命を守り
笑顔の輪を広げ
生きる希望と未来を！

第1期　統合報告書

2025年4月1日～2025年12月31日

日本の未来を担う
こども達に夢と希望を

代表理事あいさつ

こどもたちの命を守り 笑顔の輪を広げ 生きる希望と未来を！

「サウンドハウスこどものみらい財団」の目的は、こどもたちの命を大切にし、一人でも多くのこどもを笑顔にすることです。こどもの命を守り、救いたいという自らの心の叫びを形にしたいとの思いから、当財団はスタートしました。そのバックボーンとなるサウンドハウスは創業33年を迎え、いつしか国内最大級のネット企業として多くのミュージシャンを支え、音楽文化の発展に貢献してきました。その事業から得た収益を定期的に寄付し、こどもたちを支援する取り組みが、いま公益財団という形となって前進しています。

日本は世界に誇る素晴らしい国です。四季に恵まれ、海の幸、山の幸、川の幸に満ち溢れた日本ほど、食文化が豊かな国は世界にも類がありません。また、日本人は親切で優しく、治安の良い国として世界中に知られています。日本ほど平和な国はないのかもしれません。島国であるがゆえに他国から侵略されることも少なく、民主主義のもと、誰もが自由を享受しながら平穏に暮らすことができる社会を、私たちは誇りに思います。

一方で、表面的には経済的に豊かな先進国に見える日本ですが、日本人の多くは実は心の豊かさを失いつつあるのではないかと危惧しています。現実には国内でさまざまな社会の歪みが生じており、特にこどもの生命と育成にまつわる問題が山積しています。国連の子どもの権利委員会は、子供への虐待が増加している状況を把握し2019年には日本政府に対して正式に抜本的な対策の強化を求めました。しかしながら、その後も状況は十分に改善されず、むしろ深刻化していると言わざるを得ません。

少子化が進む日本社会では、500年後には人口がほぼ消滅する可能性があるという警鐘も鳴らされている昨今、こどもの出産と養育は国の最重要課題であり、こどもの存在は国家の宝であるはずです。しかし、少子化が加速しているにもかかわらず、日本では人工中絶が公表値だけでも年間12～13万件行われており、実際の数値はさらに多いとも言われています。その中には、生みたくても生むことができなかったという事例も少なくありません。また、近年メディアでも取り上げられているように、幼いこどもが虐待を受けたり、DVの被害に遭ったりする事例も後を絶ちません。その背景には貧困の問題があり、離婚率の増加に伴う連れ子の問題なども指摘されています。こうしたさまざまな要因が重なり、こどもたちの養育環境は年々厳しさを増していると言わざるを得ません。

その結果、児童虐待やDVに関する通報や相談が児童相談所に殺到し、現場はオーバーキャパシティの状態となっています。特に若いスタッフの精神的負担は大きく、緊急一時保護の施設も不足している現在、守らなければならないこどもたちの居場所を確保することさえ難しい状況にあります。行政によるさまざまな対策も打ち出されていますが、現場の課題は依然として大きく残されています。その背景には、こどもたちを支えるヘルパー、すなわち子育ての経験を持つ人材が不足しているという現実もあります。24時間体制でこどもたちを見守る働き手も足りず、危機感は高まるばかりです。

当財団ではこうした社会情勢を踏まえ、行政や民間NPOとの協力体制を重視しながら、今できることをすぐに実践し、こどもたちに手を差し伸べることに力を注いでいます。スタッフ一同の日々の努力により、こどもたちの笑顔の輪が広がっているのを実感するこの頃です。また、新しい命の誕生の喜びを、仲間とともに分かち合えるのも、この財団の誇りです。こどもの命を救うためには何事も前向きに考え、ワンチームとなって互いの力を結集することが重要です。一人でも多くのこどもが癒やされ、生きていく希望を与えられ、満面の笑みを浮かべることができるように、これからも理事・スタッフ一同、全力で取り組んでまいります。

代表理事 中島 尚彦

最前線に立つ理事からのメッセージ

社会全体で大切な命を守るため

みらいはうす熊本
山下理事

世の中では、赤ちゃんの虐待死など、傷ましい話題が日々行き交っています。その度に、なぜ母親はこんなことしたのか、子どもがかわいそう、という声が聞こえてきます。しかし、尊い命が失われる背景にある「孤立した母親」の姿に焦点があたることは、ほとんどありません。

私はこれまで、親やパートナーに頼れない10代〜20代の妊婦に大勢出会ってきました。実家で虐待を受けていた未成年の妊婦の子、親から逃げて一緒になったパートナーとの妊娠をきっかけに捨てられた女子、妊娠した子を降ろさせるためにパートナーに監禁されSOSを出してきた方など、心が痛くなる事例ばかりです。そのような境遇に陥った若い女子は、社会から断絶されて孤立し、次の負の連鎖を生み出していきます。この状況を見過ごすわけにはいきません。

子育てには、沢山の人の関わりと愛情が必要です。皆さんと一緒に、命の尊さを考えながら社会を変えていくことが、私に与えられた使命です。負の連鎖を断ち切り、社会全体で大切な命を守るため、みんなが仲間になってくださることを切に願っています。

こどもたちの命を絶対あきらめない

私は今まで幾度となく「この命をどう守るか」、という現場に立ち会ってきました。虐待、孤立、貧困、そして生きる希望を失いかけたこどもたち。制度や仕組みがあっても、そこからこぼれ落ちて絶望の中にいるこどもたちの闇は深く、元旦から「死にたい」、という声なき声にさえ向きあってきた現実を覚えています。涙を流しながら口にする、その一言を聴くたびに、目の前の命に伝え続けてきました。

『生きてるだけでいい』

日本では今、１週間に約 10 人のこどもが自ら命を絶っています。そこには追いつめられ、未来が見えなくなったこどもたちがいるという現実があります。

行政も NPO もみんな懸命に取り組んでいます。しかし、夜や休日、制度の狭間、声を上げることすらできない家庭の中で、助けが届かない命があります。この財団は全国各地で、こどもたちの命を守ろうとしている現場を支え、つなぐ存在です。私たちは、こどもたちの命を絶対あきらめない。その覚悟を胸に、私はこれからも現場に立ち続けます。

新潟で活動する
板倉理事

未来に希望を描ける社会であるように

私はこれまで、自らが経営する認可外保育園を通じて、多くの子どもの命と向き合ってきました。認可外としたのは、ルールに縛られることなく、困難に直面している子どもたちに手を差し伸べるためです。制度の狭間でこぼれ落ちてしまう命があります。さまざまなルールや仕組みの中で、その声を拾い上げられない現実もあります。本来、守るべき子どもたちのための制度であるはずが、実際には支援の妨げになっている場面を幾度となく見てきました。

産声の先にあるのは、ママのぬくもりではなく、家庭以外の場所です。「ママに逢いたい」と泣く子どもたちの背景には、虐待や孤立した子育て、生活困窮など、子どもと一緒にいられないほど深い苦しみを抱えた家庭があります。「この子を山に捨ててこようかな」「とうとう叩いちゃいました」――そう口にせざるを得ないほど追い詰められた声に、私は何度も出会い、そのたびに、目の前の命の灯が消えないよう向き合ってきました。

みらいはうす石巻
阿部理事

私たちはこれからも声なき声に耳を傾け、命の灯が消えないよう、ひとつひとつの命に向き合いながら、子どもたちが未来に希望を描ける社会であるよう努めてまいります。

活動カレンダー HISTORY

こどもたちの命は、かけがえのない宝です。すべてのこどもが希望に満ちた未来を描き笑顔で歩み続けられる社会を実現するため本財団は全力で取り組んでいます。

統合本部

2022

- 8 月
  一般財団法人サウンドハウスこどものみらい財団を設立
- 10 月
  財団設立に関する広告展開をスタート

2023

- 5 月
  財団の本部を宮城県女川町より京都に移転
- 12 月
  SNS の発信を開始

2024

2025

- 4 月
  内閣府より公益認定を受ける

助成事業

- 12 月
  助成金事業を開始、広告展開をスタート

- 2 月
  助成金の応募件数が 70 件を超える
- 4 月
  支援団体を決定し、助成金の支給を開始

- 1 月
  助成金の応募件数が 100 件を超える
- 4 月
  助成金を支給した団体が 10 件を超える
- 4 月
  助成金の累計支給金額が 1,000 万円を超える

- 4 月
  助成金の累計支給額が 2,000 万円を超える

直接事業

熊本

- 7月　妊産婦支援住宅 MAKANAハウスを開設
- 10月　20 代女性が 1 人目のベビーを出産

- 2月　出張サポート開始
- 5月　シンママサロン　スタート
- 6月　妊産婦支援住宅カランコエを開設
- 7月　妊産婦支援住宅 LINO ハウスを開設

石巻

- 9月　宮城県石巻市にこどもの支援住宅を取得

- 2月　行政・地域住民に対し事業説明会
- 6月　宮城県東部児童相談所から一時保護委託を受託
- 10月　子育て短期支援事業の契約を東松島市と締結

大崎

- 2月　宮城県大崎市に11LDKの家を借りる
- 4月　「みらいはうす大崎」を開設
- 4月　一時保護預かりをスタート
- 4月　ショートステイの受け入れを開始

2025年度 活動ハイライト

今年度、皆様のご支援により、これだけの活動が実現しました。

直接事業

３拠点支援人数合計　延1,027名 ／ 実103名

みらいはうす熊本
延88名
実27名

みらいはうす石巻
延736名
実55名

みらいはうす大崎
延203名
実21名

助成事業

助成金拠出総額　9,041,244円

助成支援団体数 11 団体（応募総数 54 件）

助成事業の取り組み

現場を支える「機動力」と「情熱」への支援の輪

当財団の助成事業は一般財団法人として2022年の8月より始まりました。そして2025年も継続して、公的な支援だけでは網羅しきれない多様な課題に挑む団体に対し、支援を行ってきました。12 団体への交付実績は、そのまま 12 の地域でこどもたちの居場所が守られた証です。

【助成事業の実績】

下記のデータは当財団が公益財団法人になる以前の2025年1月から3月のデータを含みます。

A）2025年応募総数：　54件
B）2025年助成金支援の総数：　12件（内1－3月分6件）
C）助成金拠出額：　11団体に計9,041,244円の助成金を交付

支援団体一覧
（2025 年 ）

① 一般社団法人フリースペース道
② 特定非営利活動法人ぷらっとほーむ
③ NPO法人OHANA
④ 認定NPO法人トナリビト
⑤ 特定非営利活動法人ウィーズ
⑥ あだちこども食堂たべるば
⑦ NPO法人なかよしねっと
⑧ 社会福祉法人二葉保育園 二葉むさしが丘学園
⑨ 一般社団法人なかのま
⑩ 特定非営利活動法人プラットファーム
⑪ 一般社団法人officeひと房の葡萄

財団が支援してきた
各種団体の取り組み

フリースクール
こども食堂
こどもの居場所
こどもシェルター
自立・成長支援ホーム
一時保護施設
引きこもり支援事業
困窮する女性を助ける施設
病と闘うこどもを支える施設
障害児と家族を支える事業
障害児と家族を支える事業
若年女性の自立サポート
赤ちゃんポスト
外国籍の親子支援　など

直接事業の取り組み

こどもたちの安全な居場所を提供し、かけがえのない命を守る

当財団の直接事業は、生まれてくる赤ちゃんをはじめ、困難を抱えるこどもたちの命を守り、誰ひとり取り残すことなく支援する取り組みです。

主な活動内容

ショートステイ
宿泊を伴う
預かり支援

トワイライト
夜間の預かり支援

日中預かり
一時預かり
日中の預かり支援

母子利用
母子の利用、妊娠や
出産期のサポート

一時保護
一時的な子供の保護
サポート

・本人、保護者、妊産婦からの相談対応
・発達障害児のケア
・出張サポート

直接事業 3 拠点

3 拠点支援人数合計　延 1,027 名 / 実 103 名

みらいはうす熊本：　延　88 名 / 実　27 名
みらいはうす石巻：　延 736 名 / 実　55 名
みらいはうす大崎：　延 203 名 / 実　21 名

みらいはうす熊本

若年妊婦の出産と生活支援

若年妊産婦が孤立することなく、安心して過ごせる生活支援施設を運営しています。出産を控えた妊産婦の思いに寄り添い、産前産後まで手厚いサポートを展開。実社会にて子育てをしながら自立できるようになるまで、スタッフが伴走します。困った時、つらい時、孤立する前に、「助けて」といつでも言える母子の居場所を創ることが私たちのミッションです。

みらいはうす石巻

協働のプラットフォーム

保護者の事情で養育が困難な乳幼児や児童を、宿泊で受け入れることができる施設を運営。ショートステイ、夜間預かりのトワイライトに対応しています。こどもたち誰もが安心して過ごせる居場所となるべく、地域と連携しながら母親の養育支援や相談事業も展開。幼い子たちの命と笑顔を守り、夢と希望溢れる未来へ繋ぎます。

みらいはうす大崎

新たな居場所作りのモデルケース

親と暮らせないこどもたちの緊急一時保護を引き受け、誰もが安心して暮らせる生活環境を提供するために設立されました。地域の交流の場として親子食堂を開催。ショートステイやレスパイトも引き受け、里親が安心してシェアできるサロンもオープンする予定です。こども自らが主体的に考え、自立していく手助けをしていくことが私たちの使命であり、喜びです。

直接事業

みらいはうす熊本

赤ちゃんの命を守り、退所後も続く一生の「心の拠り所」

家庭の事情や経済的困窮により、出産や子育てに困難を抱える若年妊婦の出産と生活支援に特化して活動しています。単なる宿泊場所の提供に留まらず、行政や医療機関、DV 関連会議といった多機関と密に連携し、地域社会全体で母子を包み込む体制を構築。一度つながった母子とは退所後も家族関係のような関係を維持し、彼女たちにとって一生の「心の拠り所」であり続けることを目指しています。施設での暮らしが彼女たちにとって、一生の安心に繋がることが私たちの願いです。

活動トピックス

1. 年末には、かつて施設を卒業した母子たちが「実家」に帰るかのように集いました 。
2. 新たに支援住宅「LINO ハウス」（定員 3 世帯）を開設 。
3. 民間団体として初めて、熊本市の要保護児童対策地域協議会等への参加が認められました 。

母子支援実績 （期間 2025/1/1−12/31）

支援人数
延 88 名
実 27 名

利用者出身地　熊本県

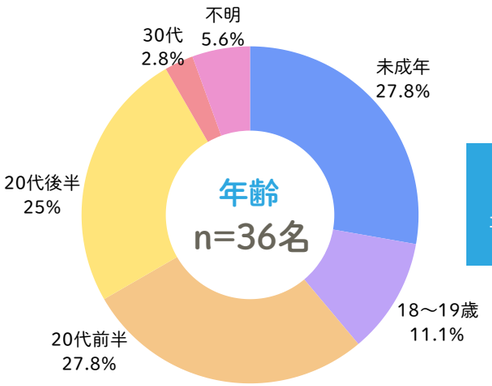
妊産婦入居者数 3 名+こども 3 名
ショートステイ 2 名+こども 2 名

入居者の平均利用日数
197 日

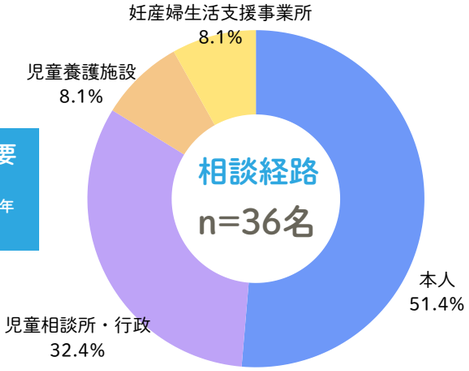
入居者の平均年齢
19 歳（18 歳〜 22 歳）

妊産婦からの相談数 49 件
新規相談者 25 名　入居相談 9 件

出張サポート
5 世帯 29 件



利用者概要
期間
立ち上げ〜2025年
全利用者



入居者の若者が親やパートナーを頼れない背景…

- 児童福祉施設出身など、元々親や実家からの支援を得られない背景がある方が多い。
- パートナーは全員明確だったが、認知をしてもらえない・DV を受けている・犯罪に関与しており頼れる状態ではない、など、様々な理由でサポートを受けられない事情を抱えていた。
- 児童福祉施設等で生活をしていたが、妊娠が分かったため支援継続が難しくなったケースや、パートナーから中絶を強要され、監禁されていたケースなどもあった。

みらいはうす熊本 所属会議

熊本市要保護児童対策地域協議会　熊本市中央区児童虐待防止連絡会議（実務者会議）　熊本県困難女性等支援調整会議

利用者の声

始めは望んできた
場所じゃなかったけど
ここに来てほんとに
よかったと思う。

みらいはうす熊本がなかったら
この子は生まれてなかった。
全部自分１人で抱え込まなくて
いいんだ、と思えた。
元気に生まれてうれしかった。

前の自分は居場所がなかったから
やんちゃなことばかりしていたけど
今はここがある。
子どもを産んで自分がこんなに
変わると思ってなかった。

直接事業

みらいはうす石巻

生まれたばかりの赤ちゃんから小学生まで　24 時間体制で連日即対応するチーム力！

私たちの元へは行政や公式 LINE を通じて切実な相談が絶え間なく寄せられています。すべてのこどもに安心と笑顔を届けるため、こどもたちの現状を関係者とリアルタイムで共有し、課題解決に挑んでいます。夜間や休日など、あるゆる緊急時に既存の公的サービスが最も機能しにくい時間帯に門戸を開き、地域における「最後の防波堤」として機能しています。

活動トピックス

1. 夜間・休日・緊急時など、公的サービスが機能しにくい時間帯に門戸を開放 。
2. 第二子妊娠中の母親が緊急搬送された際、行き場を失った 3 歳児を 10 日間、24 時間体制で預かりました 。
3. 6 月には東部児童相談所からの一時保護委託を受託 。10 月には東松島市と子育て短期支援事業の契約を締結 。

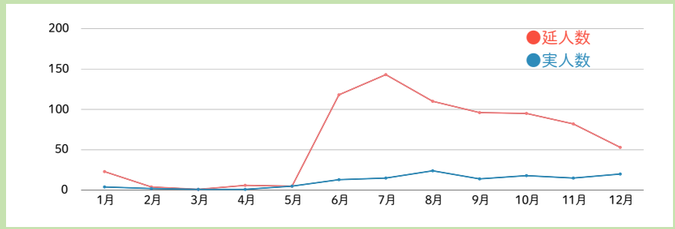
支援実績（期間 2025/1/1ー12/31）

支援人数
延 736 名
実 55 名

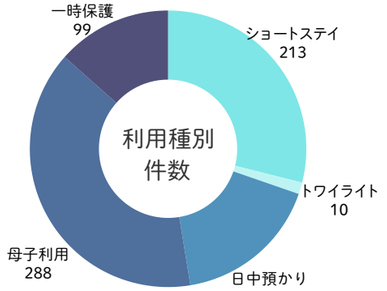
- ショートステイ　延213名/実31名（石巻市 28 名、東松島市 3 名）
- トワイライト　延10名/実6名
- 日中預かり　延126名/実29名
- 一時保護　延99名/実 3 名
- 母子利用　延288名/実9名（特定妊婦退院後受入れ 2 組）
- 平均年齢　4 歳（0～14歳）
- 相談対応　124 回

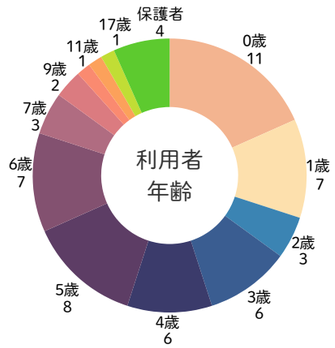
利用者数　推移

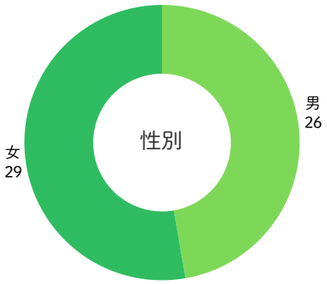
2025 年 1 月 1 日 ～ 12 月 31 日



こどもの背景

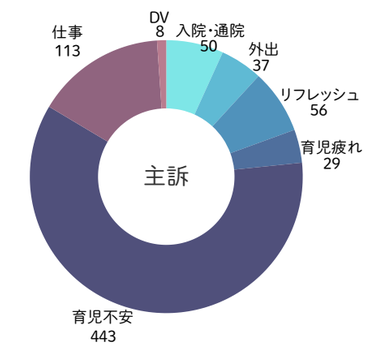


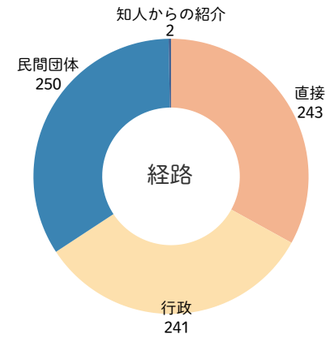


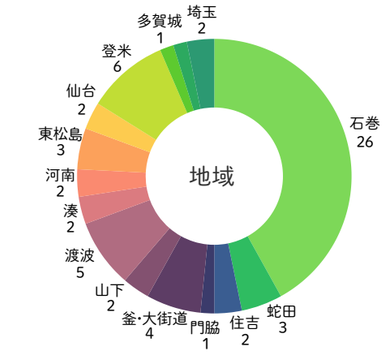


2025年1月1日～12月31日　　延 736名　/　実 55名

利用目的と流入経路







2025年1月1日～12月31日　　延 736名　/　実 55名

利用者の声

仕事が介護夜勤専従、母子家庭で両親や兄妹等、頼る先もなかったのですがいつもあたたかく迎えてくださりすごく救われた気持ちでいっぱいでした。

平日も休日も丸 1 日お預かりしてもらえて、食事もあって送迎もして下さる所は、なかなかないので、とても助かっています。ちゃんと子どもの事を見て下さっているので、安心してお預かりをお願いしています。もうひとつのおうちのように感じています。

寝不足の場合、どうしても「今日寝たい」「明日休みたい」になってしまうのですが、急な預かりだとなかなか頼れるところがなく、心身ともに疲弊していました。しかし、みらいはうすさんに出会って、いつでも頼れる場所があると知り、それからはかなり心に余裕を持って育児できるようになりました。

直接事業

みらいはうす大崎

広い住環境を活かし、一人も取りこぼさない支援を

2025年4月に11LDKの物件を取得し、24時間体制でこどもたちを受け入れるための新たな居場所作りに専念しています。支援を必要とするこどもたちが一人も取りこぼされることのないよう、開設当初から近隣の里親や児童養護施設、行政機関との対話を重ね、地域に密着した新しい形のこども支援モデルを構築しています 。

活動トピックス

1. 虐待やネグレクトの疑いによる緊急一時保護に対応するための準備をする。
2. 発達障害児のケアに取り組み、深刻なニーズにも随時対応できるように備える。
3. 広い住環境を活かし、こどもたちが笑顔を取り戻せる遊び場と安心できる寝室を確保。
4. 地域の児童相談所との連携プレーを強化すべく、会合を実施。

支援実績（期間 2025/1/1ー12/31）

支援人数　延 203 名　実 21 名

ショートステイ
延31名/実8名

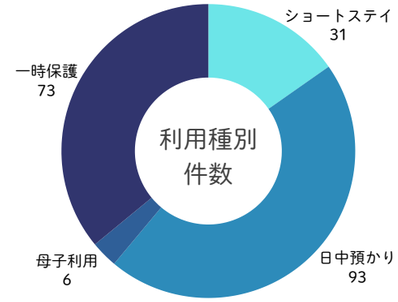
日中預かり
延93名/実2名

一時保護
延73名/実5名

母子利用
延6名/実6名

平均年齢
7歳（0～15歳）

相談対応
50回



利用者概要　件数

2025年1月1日～12月31日
延 203名 / 実 21名
相談件数：50件 / 新規相談件数：23名
利用者平均年齢：7歳（0~15歳）

安心できる
「こどもど真ん中」みんなのお家

みらいはうす大崎は、親と暮らせないこどもたちの安心できる居場所として設立されました。家でもない、学校でもない第3の居場所として地域交流の場としても活動しています。

こんな居場所　大崎市にある大きな一軒家をそのまま、こどもたちが安心して集える場所として、フル活用しています。さまざまな背景をもったこどもたちや、保護者の大人も一緒に過ごせる「ごちゃまぜハウス」の空間です。親子食堂を開催し、地域の人たちとの交流を深めながら、こどもたちをみんなで育てる取り組みです。また、保護したこどもとの関わりを保つために里親とのつながりを大切にし、シェアサロンも実施します。

利用者の声

どんな小さな事にも、夜の DM 相談にもしっかり答えてくれたり、１人じゃないんだなと心強くなれます。本当にありがとうございます。

急な相談にも、いつも「大丈夫ですよ！」と快く、子どもを受け入れて私達親子を助けてくれる施設は他には無いんじゃないかと思います。手作りの温かいご飯と安心出来る場所をいつも、ありがとうございます。

母子家庭で ２ 人の子どもを育てています、１人での子育てに余裕が全く無く限界を感じていました…子育ての相談に乗ってくれたり、気持ちが救われています。みらいはうす大崎に出逢えて本当に良かったです！

体力的にも精神的にも限界を感じていたとき、出逢ったのが、みらいはうす大崎でした。子どもや親に寄り添ってくれる場所だと思います。子ども達が安心して過ごせていると感じています。

財務・運営報告

【寄付金収入】

皆様からの温かいご支援により

合計 38,131,000 円 の寄付金を受領いたしました 。

1. 株式会社サウンドハウス：　36,000,000 円
2. 株式会社ハウスホールディングス：　2,020,000 円
3. 個人からの寄付：　111,000 円

【組織概要】

代表理事	中島尚彦
理事	阿部由子、板倉未来、山下祈恵
監事	青木一原
評議員	赤地祐一、日下武史、高倉淳一

公益財団法人
サウンドハウスこどものみらい財団

公益財団法人 サウンドハウスこどものみらい財団

概要

名　称　公益財団法人サウンドハウスこどものみらい財団
設　立　2022年 8月
所在地　京都市東山区新宮川町通松原下る西御門町456番地

ＴＥＬ　075 - 531 - 2222
ＦＡＸ　075 - 531 - 2224
ＷＥＢ　www.kodomozaidan.org

みらいはうす熊本　TEL 096-245-9988　FAX 096-245-9989
みらいはうす石巻　TEL 0225-90-9696　FAX 0225-90-9697
みらいはうす大崎　TEL 0229-25-8484　FAX 0229-25-8989

X（旧Twitter） @Kodomozaidan
Instagram @kodomozaidan
Facebook @Kodomonomiraizaidan
WEBサイト www.kodomozaidan.org